

No.57 地域と連携を図り、子どもの安全を守る取組

- 管内 胆振管内
- 分類 通学路の点検 交通安全教室 安全教育 その他（安全マップ）
- 教育課程 教科（科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 地域の安全マップである「ヒヤリハットマップ」を活用した交通安全指導及び校区内巡視の実施
- 「ヒヤリハットマップ」の作成や校区内の交通安全街頭指導等、地域との連携を図った交通安全の推進

取組の実際

ねらい

- 「ヒヤリハットマップ」の活用により、校区内の危険箇所を共有し、交通事故の未然防止に努めるとともに、地域と連携を図り、子どもの安全を確保する。

内容

1 「ヒヤリハットマップ」を活用した交通安全指導及び校区内巡視の取組

P T A（学校支援ボランティア）が中心となって作成した「ヒヤリハットマップ」を季節に応じて児童玄関前に掲示し、子どもの交通事故防止への意識を高めている。また、教職員が校区内巡視をする際に「ヒヤリハットマップ」を活用し、危険箇所を確認している。



【ヒヤリハットマップ】



【児童が日常的に活用】

- <児童の声>
 - ・校区内の危険な場所がよくわかるので、登下校の際に車に気を付けようと思いました。
- <教師の声>
 - ・校区内安全点検の際、危険箇所の確認にヒヤリハットマップを効果的に活用しています。

2 P T Aや校区地域安全委員会と連携を図った子どもの安全確保の取組

P T Aや校区地域安全委員会の協力の下、交通安全街頭指導による交通安全の啓発や交通安全教室での実地指導を行うなど、地域と学校が連携して子どもの安全確保に努めている。



【朝の交通安全街頭指導】



【地域と連携した交通安全教室】

- <児童の声>
 - ・毎日、登下校の様子を見守ってくれてありがとうございます。安心して登下校できます。
- <保護者の声>
 - ・子どもの様子を見守ってくださるおかげで、安心して学校に送り出すことができます。

成果と課題

- 「ヒヤリハットマップ」の活用により、校区内の危険場所を子どもたちに意識させるとともに、P T Aや校区地域安全委員会、学校が連携し、子どもの登下校を見守る体制を充実することができた。
- 子どもが周囲の危険を自ら察知し、自分の身は自分で守ろうとする危機回避能力の育成を図る指導の充実が必要である。